水蒸気と湯気

M⑮　土岐　忠弘

現在、色々な会社、組織の ISO の環境マネジメントシステムの運用状況を審査する仕事に従事しています。環境関連施設の審査の場で、ボイラーや焼却炉の運転管理の状態を確認している時、煙突の先から白い湯気が出ているのを見る度に、赤川先生からご指導を受けたことを思い出します。

熱機関の授業中に、｀先生、化石燃料が完全に燃焼しているかどうかは、煙突から出ている白い水蒸気を見ればわかります｀、と答えたところ、先生から、｀水蒸気は気体であって、色は、無色透明で見えることは無い。煙突から出ている煙が白く見えるのは、水蒸気が飽和状態になり、結露した細かい水滴が湯気となって見えるためである。技術者は、物事を正しく認識する必要がある｀と諭されました。

以来、技術者としての自覚を念頭に置きながら、人生を過ごしてきたと思っています。
在学中は、あまり出来の良い生徒ではありませんでしたが、先生からは、過分の評価を戴いたと今も感謝しております。
何れ、彼岸でお会いすることになると思いますが、その時にもお礼申し上げます。
有難うございました。

（ 終 ）

追悼文受付日：平成 28 年（2016 年）3 月 22 日　赤川先生－14